

日本文学研究専攻専門科目

分野	講義コード	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員
文学 資源 研究	20DJLa01**	書写文化論Ⅰ	2	日本の書写文化について、主として和歌に関わる諸資料とその伝来の諸形態についての検討と考察を通して考える。具体的には、和歌の詠作に関わる個別の資料の検討からはじめ、中世以降広く行われた御会関連の資料について実物資料を観察し、その様式の特徴や史の変遷、また伝来形態等のさまざまな側面から考察を加え、その文化史的意義を明らかにすることを目的とする。	海野 圭介
	20DJLa02**	書写文化論Ⅱ	2	【2022年度開講なし】	
	20DJLa03**	出版文化論Ⅰ	2	長い伝統を持つ日本の出版文化について、江戸初期までを範囲として、著者、出版者、流通、読者の問題など、様々な側面から考察する。特に出版が古典の本文に与えた影響について、具体例に即して検討する。併せて、古版本の書誌に関する問題も取り上げる。	落合 博志
	20DJLa04**	出版文化論Ⅱ	2	出版物を様式的に把握することを目的とする。写本と同様、出版された書物にも大きさや装丁など、様式がある。写本に比べ、手工業製品としての出版物は、技術的経済的理由により、強固に様式化される面も見られる。出版物のモノとしての側面に光をあて、様式上の問題を、具体例に即して考察してゆく。	入口 敦志
	20DJLa07**	出版文化論Ⅲ	2	日本の古典分野、とりわけ近世後期における資料を対象に、板本の取り扱い方、読み方のリテラシー、さらにはその成立過程や流布、伝来といった側面をもとりあげ、各資料の調査・分析・解釈の方法について講義することで、資料に表れた文化的特質を多様な観点から総合的に研究できるようになる。	木越 俊介
	20DJLa05**	資源集積論Ⅰ	2	この授業では、日本近世の幕府・諸藩・村方などで作成・授受・蓄積された歴史アーカイブズを用い、そこにおける多様な情報を整理・活用するために必要な調査・分析の方法を学ぶ。授業は、教材としたアーカイブズに関する基本的事項の解説ならびにその解説・情報整理・分析に関わる演習からなる。	太田 尚宏
	20DJLa06**	資源集積論Ⅱ	2	文化資源として集積された様々な蔵書や記録資料群を対象に、そのモノの科学的資料分析と技術、体系的な資源管理のあり方について考察する。 具体的には、 1. 多様な原資料である文化資源の主たる組成である紙の繊維組成の分析 2. 複合材質や形態に関する測定と解析・蓄積 3. 蔵書や記録資料群の物理的保存のための環境管理・保存措置 4. 蔵書や記録資料群の物理的保存のための修復の方法と技術 5. 記録紙に関する製造と流通の特質 この授業の講義においては、理論のみならず実践を重視し、本館の特徴を生かして図書館・アーカイブズ施設をできる限り活用していく。	青木 睦

分野	講義コード	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員
文学 形成 研究	20DJLb07**	作品形成論Ⅰ	2	各受講生のそれぞれの研究対象とする作品を、注釈的態度で精読してゆく。本文校訂、先行研究の調査、典拠の指摘など、基礎的な調査は、作品の研究に欠かせない作業である。こうした調査の結果を、単なる指摘に終わらせず、読解へと結実させてゆくことを、演習方式で学んでゆく。 作品の選択、どういう点を中心に調査を進めるかは、受講生の研究対象・関心の在処に応じる。いま一度、自身の研究対象に正面から向き合い、注釈に取り組むことによって、作品を読解するという研究の基本に立ち返って作品を理解することを目的とする。 ※平成29年度の作品形成論Ⅱの単位修得者は履修不可。 ※平成26～29年度作品形成論Ⅰの単位を取得済みの者が当科目を履修したい場合、専攻事務に問い合わせること。	ダヴァン・ディディエ
	20DJLb08**	作品形成論Ⅱ	2	日本文学史上もっとも流布した歌書である『百人一首』について学び、また個々の和歌を読解することによって、日本文学史における和歌の意義を考える。百人一首歌の読解においては、それぞれの歌人の家集との関わりを重視する。	渡部 泰明
	20DJLb09**	作品形成論Ⅲ	2	授業のテーマは「文学における諸国」である。主に、近世後期に多く刊行された諸国奇談や読本を対象とする。未翻刻あるいは正確な翻刻の乏しい作品を取り上げ、書誌事項の確認、従来の研究状況を掌握するとともに、場合によってはその本文の翻字、釈文の作成、基本的な辞書類やデータベース、同時代の典籍を用いた注釈といった過程を経ながら学んでいく。今後、研究を続けていく上での基礎的な調査能力、正確な読解力の育成を主眼とした。	山本 和明
	20DJLb10**	作品享受論Ⅰ	2	江戸時代における古典学はどのように展開し、どんな達成を遂げたのか。そしてそれは、近世文学の思潮や文学史とどのように関わり合ったのか。 時代に即して江戸を考える時、彼ら江戸の人びとの〈知〉の基盤整備の実態をつぶさにおさえることは、極めて重要な問題だ。本授業では、江戸時代に成立した注釈書の精読を通して、公家の流れを汲む〈学〉の系譜の種々相を明らかにしたい。	神作 研一
	20DJLb11**	作品享受論Ⅱ	2	近代文学を近世から断絶したものと考えるのではなく、連続し継続し関連する流動体として捉えることで、明治以降の文学におけるダイナミズムと諸問題の解明を目指す。	青田 寿美
	20DJLb12**	作品享受論Ⅲ	2	日本近代に書かれた長篇小説を、原稿、初出雑誌・新聞、単行本などのヴァリアントを比較しつつ註釈をつけて読み進める。矢野龍溪『浮城物語』、田山花袋『縁』、川端康成『雪国』、大江健三郎『万延元年のフットボール』から一つを選び、通読する。	多田 蔵人

分野	講義コード	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員
文学環境研究	20DJLc12**	文学思想論Ⅰ	2	本講では、説話・歌謡・絵画等々、日本文学の様々なジャンルに濃厚な影響を与え続けた『法華経』を軸として享受の具体相を概観し、分析することを試みる。特に室町物語を素材とし、絵画資料、民俗資料、地誌をはじめ、室町から江戸にかけて成立した仏教・神道等の諸注釈書など、文学周辺領域の資料も視野に入れてその特質を考究する。	齋藤 真麻理
	20DJLc13**	文学思想論Ⅱ	2	【2022年度開講なし】	
	20DJLc14**	文学芸術論Ⅰ	2	この授業では、江戸時代後期を代表する漢詩人、菊池五山が制作した和歌題詩(和歌に用いられる題を使って制作された漢詩)を読み解く。具体的には、『和歌題絶句』(天保10年<1839)序刊、国文学研究資料館蔵)に収められた漢詩、及び序跋文を取り上げる。どのような社会的な場面で和歌題詩が制作されたのか、漢詩・和歌それぞれに特有の表現がどのように交ざり合っているか、当時の日本で流行していた詩風・歌風との関連や相違は見られるか、などの問いを検討することで、漢字文化圏で広く共有されていた漢詩という文芸ジャンルが、一部土着化しながら、近世日本社会に深く浸透していった過程を探る。	山本 嘉孝
	20DJLc15**	文学芸術論Ⅱ	2	【2022年度開講なし】	
	20DJLc16**	文学社会論Ⅰ	2	【2022年度開講なし】	
	20DJLc17**	文学社会論Ⅱ	2	【2022年度開講なし】	
	20DJLc18**	文学社会論Ⅲ	2	本講義の目的は、書籍(出版物・写本)と本屋、それらと同業者仲間、権力の関係を社会変化に留意しながら把握することにある。言い換えれば、書籍メディアをうみだした社会・文化の構造(仕組み)を探求することにある。書籍はメディアとして力をもったから権力はそのときどきで距離をはかり、書籍は作者・板元の情熱と購買者・読者の需要や反響との循環のなかでうみだされたから社会・文化構造のもとで理解されるのである。近世前期から幕末維新期の書籍に関わる一次史料それぞれの来歴を確認し、史料批判をおこないながら用いて、文学環境の変化について考察してゆく。	藤實 久美子
共通科目	20DJLd18**	<u>文学研究基礎論Ⅰ</u>	2	学位取得者に対する近年の要望は、専門性の卓越は勿論のことながら、広い視野による豊かな総合性にも大きく向けられている。その観点から、多数の研究者によって構成される授業を設け、学力およびその基礎となる総合力の向上を支援する。	関係教員
	20DJLd19**	<u>文学研究基礎論Ⅱ</u>	2		関係教員

分野	講義コード	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員
共通科目	20DJLd20**	文学情報論 I	2	近年では、インターネットの普及、デジタル化の進展により、テキストデータを計量的に分析しようという試みが人文科学でも見られるようになってきた。 このような背景の下、本講義では、テキスト、特に文体の計量分析において必要な知識と技術を習得することを主眼に置く。講義期間の前半では、主として文体研究の歴史と周辺領域を講義形式で概観し、後半では、データ解析ソフトウェアを使って、古典、近代の文学作品の文体分析を実際に行っていく。	野本 忠司
	20DJLd21**	文学情報論 II	2	【2022年度開講なし】	
	20DJLd22**	書物情報論 I	2	幼学書から見る書物の世界を主題に据えて取り組んでみる。とかく幼童向けと軽視されがちな幼学書だが、その知識体系には、簡単に見過ごすことの出来ない重要な問題が多い。講義で日本において枢要な役割を果たした幼学書群を探り上げ、その多様な注釈書、伝世の形、影響関係にもふれる。一部のものについては、横断的に読むことを通して、その意匠の多様性にふれるとともに、古くは上代・平安時代から新しい所ではマンガに至るまで、意匠と研究上の意義に焦点をあてた分析を試みる。	相田 満
	20DJLd23**	書物情報論 II	2	資料の活用を重視する日本文学研究専攻の学生は、研究のために原本資料を扱う機会が多いと思われる。この講義は、江戸時代までの日本の古典籍を対象として、形態および内容構成の面から分析することを目的とする。まず古典籍の基本知識を習得した上で、形態と内容構成の時代やジャンルによる相違などの問題を考える。その作業を通して、古典籍に含まれるさまざまな情報を読み解き、整理して記述する方法を身に付けることを目指す。	落合 博志
	20DJLd24**	記録情報論 I	2	近世都市江戸の災害情報について考える。具体的内容は以下の三項目である。 (1)水害現場から幕閣までの情報伝達はどのようになされていたか。 (2)行政担当者間で過去情報の蓄積と利用はどのようになされていたか。 (3)民間社会での伝播はどのようであったか。かわら版や水害ルポルタージュ「安政風聞集」などを検討する。	渡辺 浩一
	20DJLd25**	記録情報論 II	2	近世日本における記録情報の蓄積の一例として、公家アーカイブズを事例として取り上げる。公家の記録情報がいかに蓄積されていたか、特にこれまで研究が乏しい近世公家の文書管理に関する記録情報を軸に検討してみたい。また、近世公家の文書管理に関わって、公家文書のアーカイブズ情報化(現状記録論・目録作成など)についても学ぶ。	西村 慎太郎

分野	講義コード	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員
共通科目	20DJLd26**	記録情報論Ⅲ	2	<p>近現代における記録情報の多様性とその社会的背景について考える。</p> <p>前半では明治・大正期の記録情報社会の形成を取り上げる。具体的には、義務教育制度と印刷技術の向上によって人びとが記録を形成する主体となり、日記や手紙などさまざまな文字記録が蓄積される一方、写真や映像といった非文字記録が登場する歴史をさまざまな記録を素材にして考える。</p> <p>後半では、昭和期以降の記録情報社会の発展を取り上げる。具体的には、マスメディアの発達を背景にして情報化社会へと展開していく時代のなかで、紙からデジタルへと記録媒体が多様化し、それにあわせて記録情報そのものの内容も変化していく歴史を考える。</p>	加藤 聖文
	20DJLd27**	アーカイブズ学集中講義	2	<p>多様な学問分野の研究高度化のため、その基礎となるアーカイブズ学を体系的に修得する。特に、資料の保存と活用方法についての視野の拡大や自分自身の研究で用いる史資料を地域でどのように活用していくかについて考える契機とする。</p>	青木 睦 太田 尚宏 加藤 聖文 西村 慎太郎 藤 貴久美子 渡辺 浩一

※アンダーラインは選択必修科目

**には開講学期や担当教員に応じて2桁の数字またはアルファベットが入る。